

平成26年木曜島訪問

真珠貝ダイバーの眠る島 木曜島へ

串本町議会 副議長 結城 力

平成26年10月20日から5日間の日程で、木曜島墓参と3年前に調印したトレス市との友好都市締結の返礼のため、木曜島を訪問することになり、議会から私がその一員として派遣される事になりました。詳しい内容は、町広報12月号に掲載されましたので、議会広報では私の視点から木曜島訪問をご紹介しますと思います。



串本から20時間の長旅の末訪れた木曜島は、トルコブルー（青緑色）の美しい海に囲まれ、海からは常時風速20m位の風が吹いて来る、風の強さが印象的な小さな島でした。

夜、私たちの宿泊したモーテルは、道路を隔てて海沿いに位置していましたので、2階の私の部屋は風のビュー・ビューと吹き渡る音が強く、なかなか眠りにつくことが出来ませんでした。

微睡(まどろ)みの中で、海から吹いてくる強い風の音は、若くして命を落とした真珠貝ダイバーの望郷の叫びのように思えました。

過密な日程の中で、日本人墓地に眠る真珠貝ダイバー鎮魂のための慰霊祭とトレス市との友好親善の行事もつつがなく執り行われ、当初の木曜島訪問の目的は達せられました。



私は、今回の訪問に2つの課題を持って木曜島を訪れました。それは、故和田良太議員が7年前の木曜島墓参で持ち帰った課題を引き継ぐものでした。

1つは、木曜島の主要な産業である伊勢エビ漁は素潜りでっており、カニ籠(かぢ)が漁獲量の増加に貢献できるのでは、という事でした。それで、荷物になりましたが日本からカニ籠を持参しました。私自身が試して効果を確認したかったのですが、公式行事の日程が詰まった中では時間がなく、現地の人に預けて使ってもらう事になりました。

もう1つは、潮岬にある「潮風の休憩所」(木曜島真珠貝採取の資料が展示されている。)に木曜島の物産・商品の販売コーナーを設けて、その収益で日本人墓地の維持・管理に充てる事ができるのでは、という事でした。そのための、物産・物品探しの訪問でもありました。

しかし、木曜島の諸物価は高く、時間の許す限り探しましたが、小さな真珠貝の飾り物でも2千円以上もして、適切な物産・物品を見つけることが出来ませんでした。

時間の制約と私の言語力の不足もあり、私の抱えていた課題は実現することなく、今回の訪問を終えることになりました。

今回の木曜島訪問で何か1つでも、将来に繋がるものがあればと考えておりましたところ、仏教の僧侶であるブリスベン在住のウィルソン氏から木曜島で毎年お盆の行事をしたいので、提灯や団扇(うちわ)、垂れ幕を協力して欲しいとの依頼がありました。風が提灯などを吹き飛ばす心配がありましたので、スティープン市長に確認しますと大丈夫とのことでした。

田嶋町長も、木曜島に眠る日本人ダイバーの慰霊が毎年お盆に行われる事、また木曜島在住の日系人の皆さんが日本へのアイデンティティーを保ち続ける有意義な行事であると判断し賛意を示しました。

(※12月議会でふるさと納税の寄付金から23万円の予算措置がされました。)

これから毎年、木曜島でお盆の行事が行われることになりました。

結びに、木曜島真珠貝採取事業は、明治初期から太平洋戦争後まで私たちの地域社会に大きな関わりのある事業でした。その中で多くの若い命が、はるか南の海域で事故や病気で奪われました。

今回の木曜島訪問は、先人の事績を風化させない、再確認のための訪問でもありました。

木曜島に眠る若き日本人ダイバーの御霊の安らかならんことを念じて。



平成26年トルコ訪問

トルコ共和国訪問 串本町議会議長 梅野光児

平成26年9月28日から10月3日にかけて、田嶋町長、役場職員とともに、日本トルコ合作映画製作の合意と姉妹都市であるメルシン市の大市長への表敬訪問のため、トルコ共和国を訪問しました。

9月29日、メルシン市に到着後、海岸沿いにあるエルトゥールル号慰霊碑において開催された追悼式典に出席。エルトゥールル号の事故で亡くなられた殉難将士に対し黙祷を捧げ、御霊を弔いました。

式典には数百人の参列者と音楽隊、報道関係者があり、トルコ共和国におけるエルトゥールル号の注目度の高さを知ることができました。

式典後には、平成26年3月に就任されたブルハネティン・コジャマズ大メルシン市長を表敬訪問し、今後の姉妹都市の関係などについて意見交換を実施してまいりました。

映画製作については、9月30日に田中光敏監督にも同席いただき、横井裕駐トルコ日本国大使を表敬訪問。

映画製作に支援いただいている横井大使に近況の報告をいたしました。

また、10月1日には、文化観光省映画局、ジャム局長と会い田嶋町長、田中監督、横井大使を交え映画製作について合意し、映画製作の発表を行いました。



その後、トルコ海軍司令部を訪れ、ボススタンオール海軍大將を表敬し、映画製作に関してトルコ海軍の協力を依頼してまいりました。海軍大將からは「最大限の協力をします。」という心強い回答をいただきました。

今回の訪問でトルコの方々は素晴らしい歓迎をいただき、日本とトルコの友好を再確認するとともに、映画製作に関する期待を強く感じました。

これからの両国の関係のさらなる飛躍のためにも映画製作に串本町が一丸となって尽力していきましよう。



映画「海難1890」串本町で撮影

